

鳴門教育大学同窓会会報

2022年9月1日発行

ごあいさつ

鳴門教育大学同窓会会長 五 宝 友 哉

初秋の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は、同窓会の活動にご理解とご協力をいただき、まことにありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中、皆様におかれましても、大変なご苦勞をされておられるのではないかと案じております。

コロナ禍が続く中で、同窓会も多くの事業を中止せざるを得ない状況ですが、新入生歓迎会にかえて学生食堂でウェルカムカレーを提供したり、学内のプランターを新調して同窓生有志で花を植え替えたり、学生からデザインを募集して応援旗を作成するなど、工夫を凝らして各種事業を実施しています（写真参照）。今年度はホームカミングデーも開催する予定で準備を進めています。

母校鳴門教育大学では大きな動きがあり、6年間学長を務められた山下一夫先生が退任され、4月から佐古秀一学長が新たに就任されました。山下先生は鳴門教育大学で長年にわたり教育・研究にあたられ、学長として大学運営にご尽力くださり、鳴門教育大学のプレゼンス向上につながる数々の功績を上げられました。これにより、鳴門教育大学は、同窓生が誇るべき大学としてさらなる発展を遂げました。今後は、佐古学長のもと、次なる発展を願うとともに、同窓会として微力ながら応援していければと思います。

昨年鳴門教育大学は創立40周年を迎えました。そこで今年の会報は、4人の同窓会理事の方々に、「母校に寄せる思い」を執筆していただきました。共に心を重ねて、懐かしい母校へ思いを馳せることにいたしましょう。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康、ご多幸をお祈り申し上げます。



学生食堂前に設置したプランター



大学創立40周年記念の応援旗

2022年度鳴門教育大学同窓会事業計画

(1) 会員相互の親睦を厚くする事業

- ①学生食堂で鳴教ウェルカムカレーの提供（4月） ②大学院新入生歓迎会（中止）
- ③学部新入生宿泊研修親睦補助（中止） ④ホームカミングデー・コース別ランチ会（11月5日）
- ⑤卒業・修了記念パーティ開催補助（3月） ⑥同窓会・クラス会等後援（随時）

(2) 会員相互の連携のための研究や交流を支援する事業

- ①都道府県支部集会関係
 - 関東支部総会（8月6日） ○静岡県支部総会（8月20日）
 - なお、以下の支部総会の開催は、未定です。
 - 香川県支部総会 ○広島県支部総会 ○沖縄県支部総会 ○徳島県支部総会 ○愛媛県支部総会
 - 和歌山県支部総会 ○大阪府支部総会 ※高知県支部総会は中止となりました。
- ②コース別研究会・同窓会
 - 学校数学研究会（数学コースの同窓会）（8月27日）
 - 鳴教心友会（生徒指導・臨床コースの同窓会）（10月15日）
 - 鳴門教育大学英語教育学会（英語コースの同窓会）（中止）

(3) 鳴門教育大学の発展に寄与するため大学や学生を支援する事業

- ①在学生の都道府県県人会関係（以下の県人会は、未定です。）
 - 高知県人会開催支援 ○香川県人会開催支援 ○沖縄県人会開催支援
- ②学生の課外活動支援
 - 鳴潮祭開催支援（11月4日～6日） ○美術コース修了・卒業展開催支援（2月）
 - 阿波おどりサークル支援（8月） ○国際交流パーティー開催支援（中止）

(4) 通年事業

- ①同窓会会報の編集・発送 ②メールによる「同窓生のための何でも相談室」
- ③会員名簿の維持管理 ④自転車のリサイクル事業 ⑤大学構内のプランターの花植

(5) 会議の開催

- ①理事会（6月25日）

母校に寄せる思い

■ 母校におもうこと

鳴門教育大学同窓会理事 富 田 知 之
(初等中等教育教員養成課程 平成7年度卒業)

私が、鳴門教育大学を見たのは、入試の下見のために、父親の車に連れられて訪れたのが初めてである。小鳴門橋を渡っていると、青い空と静かな海にたたずむ、煉瓦風の美しい建物が目に飛び込んできた。その時、「この大学に行きたい」とう気持ちが芽生えてきたことを覚えている。

大学時代で一番心に残っていることは、附属小学校での教育実習である。小学校の頃から、「先生になりたい」という漠然とした夢があった。その夢を叶えるために、鳴門教育大学に進学した。しかし、大学1、2年生の間は、その夢を実現につなげるためのイメージが湧かずに、ついつい、受動的に取り組んでしまっていた。その自分を変えたのが、教育実習である。私は、小さい頃から、学習でも、習い事でも、人と同じように始めても、人より先にできるようになったり、上手になったりすることはなかった。だいたいみんなができるようになってから、最後の方になんとか形ぐらいはできるようになるタイプだった。

教育実習が始まり、同じクラスに配属された6人が初めて授業を行うようになった。初めての授業でみんなが思うように行かない中、今思えば、単なる偶然だったのであろうが、私の授業は、自分でもびっくりするぐらいうまくいったのである。指導の先生からも、同じ配属からの先生からも褒められた。クラスの子どもたちからも「先生の授業はわかりやすかった」と声をかけてくれた。こんな感覚は初めてであり、「自分は、教師に向いているのかもしれない。この職業を目指したい」と決断したことを覚えている。もちろん、その後の授業がすべてうまくいったわけでもなく、授業がそんな簡単なものではないことも痛感した。しかし、この実習がなければ、今、教壇に立っていないであろう。

現在、自分を教師へと導いてくれた、附属小学校で勤務している。教師の仕事は決して楽なことばかりではない、しかし、努力や苦労したことは必ずやりがいとして返ってくる。これからも、同校の教員や実習生に教師の魅力ややりがいを伝えていく所存である。

■ 鳴門教育大学に吹く風

鳴門教育大学同窓会理事 桑 村 裕 桂
(教育臨床コース 平成19年度修了)

鳴門教育大学を訪れるとキャンパスの中央に大きなクスノキがある。何本かの巨木から葉擦れの音が聞こえる。さやさやという風に揺れる木々の葉たち。この風景と音が自分の根源的な心を揺らす。ここに来ると情緒やら人生やらが揺さぶられる思いがする。

私がこの大学で毎日この音を聴いていたのは中学校教員として十数年キャリアを重ねた40代の前半である。繰り返される学校での毎日に、くるくる回るはつかねずみのような自分を感じて鳴門教育大学の大学院で心理学を学びたいと切に思った。

その2年間は鮮やかに心に刻まれている。臨床心理士養成コースの前身である「臨床心理分野」で学んだことは「目から鱗」のことが多かった。グループ箱庭をして物語を書いたこと、ロールシャッハの演習で自己知覚がおかしい！と結果がでたこと、生徒指導の講義で「協働以外で荒れた学校が立ち直ったケースはない」と学んだこと、認知行動療法の視点が適応指導に生きるのでは？と考えたこと、まさに「学ぶことで人生を祝祭にする」という斉藤孝の示すような「知ること」で充実した濃厚な日々であった。

その後学校現場に戻り、「学校っていいなあ！」と思えて現在に至る。現象を背景から視ること、ただそばに居ること、長いスパンで視ること、待つこと、すぐに対応すること、共感すること、ゼロトレランス、Do difference、鳴門教育大学で学んだたくさんのことを心に置いて今日も元気に働いている。

今の自分があるのは鳴門教育大学で学んだ日々があり、ゼミの指導教官であった小坂先生はじめたくさんの教官の先生がたのご指導があつてのことと改めてありがたく振り返る。

鳴門教育大学に吹く風は日常に追われる自分に「根源に立ち返れ」と言っているようだ。目の前のことに囚われ消耗することに警鐘を鳴らしているのではないか。これからも多くの人がここで学び、鳴門教育大学の風を味わい、身につけ、これからの人生でその風を吹かせてくださるのではないか。

■ 鳴門教育大学は、第2のふるさと

鳴門教育大学同窓会理事 栗 野 安香音
(国語科教育コース 平成29年度卒業)

鳴門教育大学を卒業し、教員として働き始めて早5年が経ちました。在学時代を振り返ってみると、本当にたくさんの思い出が一気によみがえってきます。入学した春、これから始まる大学生活への期待に胸を膨らませていまし

た。爽やかな風が吹き抜ける大学の構内は落ち着いた雰囲気、学ぶには最適な環境だと確信しました。著名な先生方の講義を受け、教育と子供への思いがますます深まりました。また、同じ夢をもった仲間と出会い、ともに学ぶ日々はとても有意義な時間でした。その中でも、とくに印象に残っているのは附属中学校で行った教育実習です。朝早くから車に乗り合わせ、眠たい目をこすりながら学校に向かい、外が暗くなるまで授業準備に追われていた毎日。本物の中学生を目の前にした授業は、緊張でうまく話せず、失敗ばかりで涙を流す日もありました。それでも最後までやり遂げられたのは、熱心に指導してくださった先生方と仲間の存在があったからだと思っています。教員採用試験の勉強や、卒業論文を制作する際も、同じように国語科先生方に助けられ、仲間たちと支え合いながら乗り越えてきました。先生方は研究に熱心であることはもちろん、学生が困ったり悩んだりした時には、親身になって話を聞いてくださり、励ましてくださいました。いまでも感謝の気持ちでいっぱいです。

鳴門教育大学を一言で表すと、「ふるさと」です。学生生活の思い出がたくさん詰まった場所。いつでも温かく迎えてくれる、いつでも戻ってきたくような、そんな場所です。これからも鳴門教育大学を卒業する人たちにとって「ふるさと」のような温かい存在であってほしいと願っています。

最後になりましたが、コロナ禍という困難な状況の中での大学関係者の皆様のご尽力に心からの敬意と感謝申し上げます、母校の益々の隆盛を祈念申し上げます。

■ 充実した2年間

鳴門教育大学同窓会理事 長 谷 美 穂
(言語系コース国語 平成27年度修了)

大学を卒業して20年近く経っていた。自分に足りないものを自覚し、焦りを感じながら働いていた。

「もう一度鳴門教育大学で学びたい。」

願いが叶い、大学院で2年間学ぶことができた。2年間の鳴門教育大学での学びを振り返ると、充実という言葉がぴったりである。

講義を受けると、現場で出会った子どもたちの顔が浮かんできた。(困ったり、泣いたりしていた子どもたちの心の底には、本当は別の思いがあったのではないか。)と反省した。また、自分の今までの授業を振り返る機会にもなり、(次は〇〇を取り入れた授業をやってみたい)と心がわくわくすることもあった。

たくさんの人々にも出会うことができた。年齢や出身が異なる同級生と授業で意見を出し合ったり、考えを聞いたりしたことは大変刺激になり、新しい学びがあった。大学院の先生方は、皆さんとても優しく、一緒に食事をしながら教育や研究の話を聞くことがとても楽しかった。大学時代には気付けなかった先生方の新たな一面を知ることができた。

何より充実していたのは修士論文を作成したことだ。大学院で最も楽しみにしていたことだったが、同時に苦しみでもあった。今までの研究者の上に自分の研究をほんの少し重ねることの大切さとその重さを痛感した。研究が思うように進まず、苦しんだ時は同じゼミの仲間が心の支えだった。そして、幾田先生の御指導は忘れられない。研究の方向性に悩むたびに、私が本当に研究したいことを整理し、否定することなく、分かりやすく導いてくださった。現場に戻った時は、幾田先生のように子どもたちと関わっていきたく強く思った。

この2年間で、自分の財産になったことは間違いない。大学院で得た知識や経験を、これから出会う子どもたちのために役立てたい。また、鳴門教育大学で現場の先生方が学ぶことの素晴らしさを伝えていきたい。

同窓会の役員組織

○会長	○副会長	○監査	○事務局長	○事務局次長
○理事	1期から10期までの卒業生		○幹事	広島県支部代表
○理事	11期から20期までの卒業生		○幹事	和歌山県支部代表
○理事	21期から30期までの卒業生		○幹事	高知県支部代表
○理事	31期から40期までの卒業生		○幹事	香川県支部代表
○理事	1期から10期までの修了生		○幹事	愛媛県支部代表
○理事	11期から20期までの修了生		○幹事	関東支部代表
○理事	21期から30期までの修了生		○幹事	静岡県支部代表
○理事	31期から40期までの修了生		○幹事	徳島県支部代表
○理事	学生会代表		○幹事	沖縄県支部代表
○理事	院生会代表		○幹事	大阪府支部代表
			○幹事	鳴教心友会代表
			○幹事	学校数学研究会代表

鳴門教育大学第8代学長に就任して

鳴教の風、鳴教からの風

鳴門教育大学学長

佐 古 秀 一

令和4（2022）年4月より、山下一夫前学長の後を受け継ぎ学長に就任いたしました。初代前田嘉明学長には修士論文の審査を担当していただき、厳しいご指導をいただいたことを今でも覚えております。その前田先生に連なる学長職に就いたことには感慨深いものがあります。

昭和56（1981）年に新構想の教育大学として開設された本学は、時代に先んじる教師教育を開発・実践することを期待された大学です。端的に言えば、現職教員を含めて「よい教師を一人でも多く」育て社会に送り出していくために、教師教育における先進性と卓越性を追求し続けることが本学の使命であると考えております。そして、このことに教職員が協働して取り組む大学づくりが私に課せられた役割であると考えております。

先日、本学で同窓会の理事会が開催された折、理事の一人（大学院修了生）が、「久しぶりに鳴教に来てみて感じたことがある。鳴教には風がある、鳴教の風がある。」とおっしゃったことが印象的でした。おそらく大学院時代に鳴教で学んでおられたことを懐かしく感じられてのことと思います。これからは鳴教「からの」風によって、教育や教師の在り方について新鮮な情報を卒業生、修了生みなさんにお届けできるよう、研究教育と情報発信の充実を図りたいと考えております。

学び続ける教師像は単なる理念ではなく、教師の職業（教職）の本質的な部分を表している言葉だと思います。一人ひとりの子どもの教育はまさに未完のプロジェクトであるが故に、教師は学び続けなければならない存在なのだと思います。同窓会の皆様と共に力を合わせて、学び続ける教師を支える大学としてパワーアップしたいと考えております。今後ともご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

連 絡 事 項

1. コース別ランチ会のお知らせ

日 時 令和4年11月5日（土） 12時～13時

場 所 学生食堂

佐古学長、山下前学長及びコースの教員も参加の予定です。

参加頂ける方は、同封の「異動通知連絡カード」でお知らせください。

2. 第7回鳴門教育大学ホームカミングデーのお知らせ

日 時 同日 13時30分～15時35分

講演会 『鳴門教育大学での出会いの数々 ～子どもの心と大人の知恵～』

講 師 山下 一夫 前学長

場 所 鳴門教育大学 講堂

参加頂ける方は、同封の「異動通知連絡カード」でお知らせください。

なお、詳細は、別添のチラシをご覧ください。

（注）新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、変更があった場合は、同窓会のホームページでお知らせします。

3. 鳴門教育大学同窓会のホームページのご案内

同窓会の役員一覧、会則、同窓会・クラス会への後援援助金支給基準等の会計規則が掲載されています。同窓会のホームページは鳴門教育大学のホームページから入れます。

4. 住所等の変更届のお願い

住所等に変更があった場合及び本学学部卒業及び大学院を修了の方で郵便物が2通届いている場合は、同封の「異動通知連絡カード」でお知らせください。

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748

鳴門教育大学同窓会事務局 土 井 榮 次

電 話：090-5279-1466 e-mail：nueaa@naruto-u.ac.jp